



市指定有形文化財（絵画）

- ・指 定 名 称 楠木父子桜井駅訣別の図額
(くすのきおやかさくらのえきけつべつのずがく)
- ・指 定 年 月 日 昭和38年10月15日
- ・所有者及び管理者 生保内神社宮司 生玉宗人

河内の一豪族だった楠木正成は、南北朝の動乱期、南朝の後醍醐天皇方につきましたが、湊川(神戸市)の戦いで足利尊氏、直義に敗れ戦死しています。

この湊川の戦いに出陣する時、息子政行に桜井駅(奈良県)で別れを告げる場面を平福徳庵が描いたものです。

この板絵は、角館佐竹北家の組頭石井甚右衛門外24名が、戊辰戦争の生保内口従軍記念として奉納したものです。当時、「忠孝の士」として仰がれていた楠木公を、官軍の自分達の姿にダブらせたのでしょうか。

市指定有形文化財（彫刻）

- ・指 定 名 称 大黒像(だいこくそう)、山の神像(やまのかみそう)
- ・指 定 年 月 日 昭和37年10月30日
- ・所有者及び管理者 荒沢神社宮司 成田久衛



どちらの彫刻も、木食上人(江戸時代の僧で日本中を遊行し、各地に特異な木彫仏を残した。)を思わせる荒いタッチの木彫りの像(材質はヤマナシ)です。作者は当時福寿院の住職をしていた「了円」です。

天明4年(1784)3月9日に郷中安全を祈願して、願主安藤仁左衛門(角館)、富屋源兵衛(盛岡)、肝煎草彌三郎兵衛(勘解由屋敷)、老百姓惣左衛門(荒川尻)、同万右衛門(野中清水)、同藤四郎(野中清水)、同九兵衛(荒川尻)、同清七(不明)、同市蔵(後村)、同甚五郎(国館)らが寄進したものです。

旧太田町や仙北市の中でもよく似た像が残っています。

(由緒、沿革及び経緯等は旧田沢湖町教育委員会発行「古えの散歩」より引用)